巻頭言

生物機能開発研究所は，応用生物学部の開設を研究面からサポート・推進することを目的として，学部開設に先立ち，2000 年 4 月に大学附属研究所として設置された．大型外部資金の獲得を目指した学部内共同研究プロジェクトの支援，「生命・食・環境」に関する最新の研究動向を学ぶライフサイエンスセミナー（生命健康科学研究所共催），研究所講演会などの開催，中部大学初の寄附研究部門（部門長禹済泰教授）の設置，さらに研究所の研究推進と大学院生の研究活動支援を目的とした大学院特別研究補佐員の採用など，学部・研究科の研究活動の牽引役，外部資金に結び付く研究の推進母体，知の交流の場としての役割を果たしてきた．

近年，大学院のさらなる充実が大学の方針として掲げられ，その一環として，2022 年 4 月から応用生物学研究科附置研究所として，新たな一歩を踏み出すことになった．研究所の設置形態が変更されたことを受け，研究所運営委員会では，研究科の教育研究における研究所の位置づけを再確認するとともに，その役割と活動について検討を進めている．2023 年度の大学院生数は，博士前期課程 83 名（1 年 43 名，2 年 40 名），博士後期課程 7 名（1 年 2 名，2 年 1 名，3 年 4 名）であり，ここ数年，大学院志望者数は増加している．学部・研究科の研究力は大学院生のアクティビティーに大きく支えられている．研究科附置研究所として，大学院生の研究意欲の向上と学部生の大学院進学のモチベーションにつながる支援によって，大学院の活性化に貢献することを目指している．

本紀要では，総説，解説，報文，短報に加え，各年度の研究プロジェクト報告，大学院特別研究補佐員・研究成果報告を掲載している．本紀要は，研究科の研究成果の発信ツールとしての役割を担っている．

2023 年 9 月

生物機能開発研究所
所長　柘植尚志